

いちのみやの芸術文化

■ 文化情報

■ エッセイ 「書と子どもたち
―コロナ禍を越えて―」

書部門

公益社団法人中部日本書道会

一宮支部 村上 史麗

■ 一宮市芸術祭アルバム

■ 特集「三岸好太郎と《海》の連作」

2024.3

第63号

三岸好太郎

札幌豊平館にて
昭和7年(1932)

一宮市芸術文化協会

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

三岸好太郎と《海》の連作

三岸好太郎《海》

一宮市三岸節子記念美術館では、令和四年に一宮市内で代々繊維関連の工場や商社を営まれていたお宅から、三岸節子の夫・好太郎（明治三十六年・一九〇三年生まれ）



▲図1 三岸好太郎《海》 昭和8-9年(1933-34)頃 個人蔵・一宮市三岸節子記念美術館寄託

の油彩画《海》(図1)をご寄託いただきま

した。制作年は不詳ですが、よく似た構図の作品が他に六点知られており、これらと同様に昭和八〜九年頃に描かれたと考えられます。このうち、北海道立三岸好太郎美術館所蔵の一点(図2)は、名古屋で繊維関係の仕事をしていた人物が節子の兄に頼まれ、好太郎没後の昭和十年頃に節子から購入したと伝わるものです。画面右上に「S. Migiishi」と節子作品かのようなサインがあります。サインにあって節子がサインを入れたものと考えられます。もう一点(図3)は、図1の作品と同様に、右下に赤茶色の絵具で「K. Migiishi」とサインがあり、図1の作品と近い関係にあることが窺われます。図1は、他の作品と異なり、右に赤茶色の断崖が描かれています。筆致の前後関係から、この部分は空よりも後に描き加えられたことが分かります。

サイン部分の絵具はこの断崖と色が似ており、断崖とサインは画面に加えられた時期が近い可能性があります。あるいは、断崖とサインはともに、好太郎没後の節子の手によるものかもしれません。

蝶が渡る海の間ころは

《海》の連作が描かれたと推定される時期の好太郎の活動を見ると、昭和八年三月と十月の独立美術協会展にひっかけ線条による作品を出品し、前衛的な実験に挑んでいます。一方、翌九年になると、その作風を一変させ、三月の独立展に《海洋を渡る蝶》(図4)《旅愁》《海と射光》など、海と蝶や貝殻を組み合わせた幻想的な作品を出品し



▶図4 三岸好太郎《海洋を渡る蝶》 昭和9年(1934) 平塚市美術館寄託(国際興業コレクション)



▲図3 三岸好太郎《海》 昭和8-9年(1933-34)頃
北海道立三岸好太郎美術館蔵



▲図2 三岸好太郎《海》 昭和8-9年(1933-34)頃
北海道立三岸好太郎美術館蔵

ています。《海》の連作は、これらの海をモチーフとした作品の前段として描かれた、構図研究の一環ではないかと考えられています。《海》の連作では、水平線の位置を様々に変えて試行している様子が見て取れますが、その際に好太郎の友人でもあった美術評論家・外山卯三郎の著書『新構図法の研究』を参考にした可能性があると考えられます。その書には、海景の例として、フランスの画家ギュスターヴ・クールベの海を描いた作品(図5・参考図版)を取り上げ、水平線の位置が高ければ重厚に、低ければ軽快な画面になると述べています。

《海洋を渡る蝶》の直接的なモチーフは、北海道大学の昆虫学の権威であった松村松年博士の海洋を渡る蝶の話であったといえます。蝶が渡る海は、水平線が低く抑えられ、軽快な印象を与えます。

その蝶が渡る海の間は、クールベをはじめ、多くのフランス画家が描いたエトール・ルタの海岸、好太郎が憧れたフランスの地であったのかもしれない。好太郎はその憧れの地を踏むことなく、昭和九年七月、旅先の名古屋・銭屋旅館で三十一年の短い生涯を閉じました。

(一宮市三岸節子記念美術館学芸員 成河端子)



▲図5 ギュスターヴ・クールベ《波》 1869年 愛媛県美術館蔵

■参考文献

- 外山卯三郎『新構図法の研究』(金星堂 一九三二)
- 匠秀夫『三岸好太郎 昭和洋画史への序章』(求龍堂 一九九二)
- 苦名真『三岸好太郎(海)、そのサインの謎をめぐって』、『紀要』(北海道立近代美術館・三岸好太郎美術館ほか 二〇〇〇)
- 『生誕一〇〇年 三岸好太郎展』図録(東京新聞 二〇〇三)
- 『クールベと海ーフランス近代 自然へのまなざし』(ふくやま美術館・山梨県立美術館・パナソニック汐留美術館 二〇二〇)

8回 芸術祭

(1月以降分)

音楽部

一宮シティ合奏団第29回定期演奏会



11月5日(日)
尾西市民会館
一宮シティ合奏団

尾西ウィンドオーケストラ 第91回定期演奏会



11月26日(日)
尾西市民会館
尾西ウィンドオーケストラ

一宮市民吹奏楽団 第48回定期演奏会



12月3日(日)
一宮市民会館
一宮市民吹奏楽団

第21回尾西作家協会展



12月4日(月)~10日(日)
尾西信用金庫事務センター
尾西作家協会

一宮三曲協会定期演奏会



11月23日(木・祝)
尾西信金ホール(木曾川文化会館)
一宮三曲協会

第12回雅楽フェスティバル



12月9日(土)
一宮市民会館
特定非営利活動法人旭雅楽会

楽しく描こう会水彩画展



1月23日(火)~28日(日)
三岸節子記念美術館
楽しく描こう会

會山流樹徳吟詠会 山榮会練成会



11月26日(日)
尾西商工会館
山螢会

芸能部

第20回記念尾西展



2月28日(水)~3月3日(日)
三岸節子記念美術館
尾西美術連合

第50回記念一宮音楽家協会 定期演奏会



11月26日(日)
尾西信金ホール(木曾川文化会館)
一宮音楽家協会

尾西芸能祭



11月19日(日)
尾西市民会館
尾西芸能祭実行委員会

「第78回 一宮市芸術祭」を令和5年9月から市内各所で開催しました。今回は43行事が開催され、15,000名を超える方が来場されました。

開催報告(1)

文学部

美術部

俳句大会



11月3日(金・祝)
一宮スポーツ文化センター
一宮俳句協会

水彩画アクア展



11月13日(月)～17日(金)
尾西信用金庫事務センター
アクアマリン

第68回(公社)中部日本書道会一宮支部展



11月25日(土)～26日(日)
一宮スポーツ文化センター
公益社団法人中部日本書道会一宮支部

市民短歌大会



11月12日(日)
一宮スポーツ文化センター
真清短歌会

第39回一面会 能・狂言面作品展



11月18日(土)～19日(日)
アイプラザ一宮
一面会

第51回(公社)中部日本書道会一宮支部学生書道展



11月25日(土)～26日(日)
一宮スポーツ文化センター
公益社団法人中部日本書道会一宮支部

第32回手つむぎ・染め・織り展

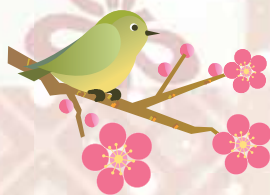


11月21日(火)～26日(日)
玉堂記念木曾川図書館
尾張もめん伝承会

第17回 I B K 美術作家展



11月29日(水)～12月3日(日)
玉堂記念木曾川図書館
I B K 美術作家



書と子どもたち

—コロナ禍を越えて—

書部門 公益社団法人中部日本書道会一宮支部 村上史麗

むらかみ しれい

令和二年一月、新型コロナウイルスは突然なんの前ふれもなく襲来し、日本だけでなく、世界中を恐怖のパニックに陥れました。コロナ禍では学校が一時休校になったり、授業がリモートで実施されたりするなど、学ぶことに大変な苦労が伴いました。書道塾の各教室でも工夫して通常の学びが出来るように努力しましたが、書道展などの行事の規模を縮小せざるをえない状況となり、寂しいかぎりでした。



豊橋筆 筆づくり(令和5年10月)

その後、令和五年五月に五類感染症に位置付けられ、七月には、やっとコロナ禍前のかたちで七夕まつり学生書道展を開催することができました。これまで自粛していた「うちわ書き」も復活し、「久しぶり！ 楽しいね！」と子どもたちや保護者の方の明るい声が会場に響きました。また本町商店街での書の展示も、七夕飾りにも負けない個性あふれるカラフルな展示になりました。十月には講習会を開催し、豊橋筆の伝統工芸士の方の筆づくりを見学しました。試し書きコーナーではそれぞれの書風で自由に筆を動かして、和氣瀧の楽しい時間を過ごしました。十一月には一宮支部展・支部学生書道展を開催し、学生の皆さんにカレンダーへ好きな言葉や目標を筆で書くコーナーを設営したところ、一時も席の空く間もないほどの盛況で、子どもたちはパワー全開でした。

答え以外の後で生かされるべきものを失っている」「プロセスをどういつふうに作り上げるかが大切である」。

書道は日本人として学ぶべき日本語とその心を育み、もっともアナログであるが故に奥が深く学びも大きいと思います。子どもたちは何度も書いては、線の質や字の形一すくには得られないけれど大切なものを体験し、それと同時に集中力・持続力・考える力を身につけていきます。コロナ禍を経た今、こうして書道とともに育った子どもたちがどのように成長していくのか大変楽しみです。

書道は令和六年一月にユネスコ無形文化遺産へ提案することが決定されました。これを機に書がもっとと生活に浸透し、皆さんの大切



一宮支部学生書道展カレンダー書き(令和5年11月)

な財産になることを願っています。私が書道作品を書く場合、漢詩文を書くことが多いのですが、左の作品は詩文の一部を読み下し文で表現しました。ひらがなも加えてやわらかな感じの作品になったと思います。



「宮中行楽詞より」
第81回一宮市美術展 依頼出品
(令和5年11月)

文化情報



「DARK FOREST」 岡崎 美穂

県文化協会連合会の催し

西尾張部芸能大会(報告)

1月21日(日)、愛知県文化協会連合会西尾張部芸能大会が、扶桑文



化会館にて開催されました。本協会からは一宮三曲協会(邦楽)の皆様が出演され、吉沢検校作曲の春の歌を6曲披露しました。琴や尺八の落ち着いた音色は会場を大いに魅了しました。

加入団体の催し

『清聲會作詩教室』

【問合せ先 一宮漢詩清聲會】

☎(78)79553

日時▼4月2日(火)・5月14日(火)

6月4日(火) 午前10時〜

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の実作指導や、創作詩の添削の検討を会員間で行います。(初心者歓迎)

参加料▼年3,000円

申込み▼当日直接会場

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(78)50002

日時▼4月13日(土)・5月11日(土)

6月8日(土) 午後1時〜

会場▼葉栗公民館

内容▼各自10句持参、互選により優秀作を記録に残します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

『能・狂言面の制作』

【問合せ先 一面会】

☎(69)7372

日時▼4月13日(土)・27日(土)

5月11日(土)・25日(土)

6月8日(土)・22日(土)

午前9時30分〜

会場▼アイプラザ一宮第5会議室

内容▼実作指導します。

(初心者歓迎)

参加料▼月3,000円(見学無料)

申込み▼当日直接会場

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(85)7074

日時▼4月14日(日)・5月12日(日)

6月9日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼実作指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73)0282

日時▼4月21日(日)・5月19日(日)

6月16日(日)・7月21日(日)

午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼当季雑詠2句を実作指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼開催日の前月末日(必着)

までにハガキにて、参加

希望日・当季雑詠2句(初

参加の方は希望者のみ)・

郵便番号・住所・氏名(ふ

りがな)・電話番号・参加

経験の有無を記入の上、

送付(〒491-8501 本庁舎生

涯学習課)

『春季謡曲大会』

【問合せ先】一宮謡曲同好会

☎(62)0966

日時▼4月21日(日)

午前9時30分〜

会場▼尾西生涯学習センター

内容▼素謡、連吟等の発表

入場料▼無料

『市民川柳教室』

【問合せ先】一宮川柳社

☎(44)7598

日時▼4月28日(日)・5月26日(日)

6月23日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼自由吟および課題吟を実作

指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼初参加の方は開催日の3

日前までに電話で生涯学

習課(☎85-7074)

『一宮音楽家協会 サロンコンサート』

【問合せ先】一宮音楽家協会

☎(87)2827

日時▼5月19日(日) 午前11時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼さわやかで親しみやすい

クラシック音楽の名曲の
演奏会です。

入場料▼無料

『二宮市民吹奏楽団創立50年記念 レインボーコンサート2024』

【問合せ先】一宮市民吹奏楽団

☎080(5102)8611

日時▼6月16日(日)

午後1時30分〜

会場▼一宮市民会館

内容▼「士官候補生」他、バンド

ネオン奏者の啼鳴(てびき)さん

お招きし、「情熱大陸」など

コラボ演奏を行います。

入場料▼500円(前売400円)

中学生以下無料(要整理券)

『尾西ウィンドオーケストラ 第92回定期演奏会』

【問合せ先】尾西ウィンドオーケストラ

☎090(7028)9165

日時▼6月23日(日) 午後2時〜

会場▼尾西市民会館

内容▼組曲「展覧会の絵」や「ロッ

クン・ロール・メドレー」な

ど、クラシックとポップ

スの楽しい演奏会です。

入場料▼500円

中学生以下無料(要整理券)

春の市民美術教室

対象 ● 市内在住・在勤・在学の方
申込み ● 各教室の申込締め切り日までに電子申請
または電話で芸術文化協会(☎0586-85-7074)
※電子申請は一宮市公式ウェブサイト
[ID1059141]から申し込みできます。

油彩・アクリル画『初心者からの油彩・アクリル画教室』

日時 ● 5月17日〜6月28日の金曜日(5月24日を除く)
午前10時〜正午(6回)
会場 ● 尾西生涯学習センター
内容 ● 女性モデルを描きながら、油絵とアクリル画の技法を学びます。
講師 ● 大島麻琴さん(二科会会員、一宮美術作家協会)
定員 ● 20名(抽選、初参加の方優先)
受講料 ● 3,000円(教材費を含む)
申込締め切り日 ● 4月12日(金)



写真『楽しく始める芸術写真』

日時 ● 5月16日、30日、6月6日、13日(木)
午後1時30分〜3時30分
5月19日、6月2日(日) 午前10時〜正午(6回)
会場 ● 一宮スポーツ文化センター他
内容 ● 屋外での写真撮影を交え、写真の基礎を学びます。
講師 ● 夫馬勲さん(日本写真家協会会員)
定員 ● 30名(抽選、初参加の方優先)
受講料 ● 1,500円
申込締め切り日 ● 4月12日(金)



書『楽しみま‘書’ 親しみま‘書’』

日時 ● 6月5日〜7月10日の水曜日
午前9時30分〜11時30分(6回)
会場 ● 一宮スポーツ文化センター
内容 ● 書道の基礎を学び、自分らしい字でオリジナル作品を作ります。
講師 ● 川浦碧濤さん((公社)中部日本書道会一宮支部)
定員 ● 20名(抽選、初参加の方優先)
受講料 ● 2,400円(教材費を含む)
申込締め切り日 ● 5月13日(月)



【題字】武山翠屋
【編集・発行】一宮市芸術文化協会

【連絡先】一宮市芸術文化協会事務局(市教育委員会生涯学習課内)
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL 0586-85-7074 / FAX 0586-73-9213